



人がつながるみんなで育てる明日の公共交通

私たちが移動で使う公共交通は、まちの骨格として、人や地域をつなぐ役割を担っています。「三田市地域公共交通網形成計画」は、地域の特性やニーズに合ったより良い移動手段とネットワークづくりをみんなの力で実現していくことを目的としています。※公共交通の役割や課題は30年9月15日号12面にも掲載しています。
申し込み・問い合わせ＝交通まちづくり課(559-5058 FAX 559-7400)

「三田市地域公共交通網形成計画」策定

あなたは最近バスに乗りましたか？

三田市内で利用される交通手段は自家用車が5割を占めており、特に北部地域では6割から8割と阪神間の中では非常に高い依存率となっております。ところが近年、市内でも高齢化が進み、車を気軽に運転できない人が増えてきたことから、通勤や通学以外でも公共交通の必要性が高まり、これまで以上にきめ細やかな公共交通サービスの向上が求められています。

公共交通の「今」

バスや鉄道などの公共交通機関は、利用者によって支えられています。しかし、市内ではバス利用者の減少が進んでいることから、子どもたちの通学手段の確保など生活に必要な路線を維持するため、年間約4千9百万円の補助金を投じています。そのほか鉄道の安全対策、交通弱者の移動支援策などと合わせると、公共交通に関する予算は年間約2億3千万円が充てられています。利用者数の減少だけでなく、近年では運転手の不足が深刻化しており、公共交通を取り巻く環境はこれまでになく大きく変化しようとしています。このような現状を踏まえ、市では将来にわたってまちの骨格となる公共交通網を維持していくため、市民の皆さんの意見を頂きながら「三田市地域公共交通網形成計画」を策定し、移動しやすく安全なまちの実現に向けた一歩を踏みだそうとしています。



計画の4つのポイント

■広域交流を支えるネットワーク

駅などの交通拠点同士を結ぶ鉄道やバスの連携強化、大学やテクノパークといった移動需要の拡大に対応した幹線交通の再編を目指します。



■日常の暮らしに寄り添うネットワーク

新たな地域コミュニティ交通の導入や路線バスの再編など地域内の移動を支えるネットワークづくりや小さな交通拠点づくりに地域とともに取り組み、誰もが安心して生活できる地域づくりを目指します。

■分かりやすく利用しやすいサービスの充実

分かりやすい交通情報の提供や乗り換え連携の強化など、誰もが安心して快適に移動できる公共交通サービスの充実を目指します。

■みんなで考えつなげていく体制づくり

利用促進に向けた仕組みづくりや他分野との連携を強化し、みんなが互いの立場と役割を理解・協力しながら、より良い公共交通の維持と発展に向けた取り組みを目指します。

公共交通の「これから」

誰もが便利で移動しやすき交通手段の確保は、移動問題を解決するだけでなく、人と環境にやさしい魅力あるまちづくりの基礎であり、市街地やニュータウン、農村地域など本市の特色ある地域の賑わいや潤いづくりにもつながります。

公共交通は、それを支える利用者、市民や市を訪れる皆さんを抜きに語れません。市では、「人がつながるみんなで育てる明日の公共交通」を計画の理念とし、誰もが自分ごととして知恵と力を出し合いながら市民の皆さんと共に持続可能な交通まちづくりを進めていきます。



▲「三田市公共交通まちづくりシンポジウム」でのワークショップ(30年度)

募集 三田市地域公共交通活性化協議会市民委員
定員：2～3人 応募資格：市内在住で、公共交通に関心があり、平日昼間に開催する協議会(年に数回)に出席できる人
任期：2年間(予定)
募集期間：4月1日～26日、詳しくは市ホームページまたは交通まちづくり課まで

市長の「ほっとトーク」

森のひと言



三田市長 森 哲男

「生きがいとは」
3月19日、平成30年度「さんだ生涯学習カレッジ」の大学卒業式と大学院および研究科修了式が、郷の音ホールで挙行されました。4月の入学式と違って、3年間ないし6年間で育まれた「友情」によって和やかな雰囲気で行われました。同カレッジでは、学習の基本理念として、学びを通じての「生きがいづくり、人づくり、地域づくり」を掲げています。卒業生および修了生の皆さん、それぞれにカレッジでの生活を通じて、新たな生きがいの発見、再発見をされたことと思います。「人生50年」の余生をどう過ごすかという時代から、「人生100年」の生涯現役を目指す時代へと、人類史の価値観、システムが大きく変わろうとしています。7年前、県高齢者大学「いなみ野学園」で仕事をしていた時に出会った次の言葉を今も大切にしています。それは、精神科医で作家だった神谷美恵子さんの著書にあった「生きがいを感じているひとは、他人に対してうらみやねたみを感じにくく、寛容でありやすい」という言葉です。高齢者をはじめ全ての人が生きがいを有する社会は、人と人が共生している成熟した社会と言えるのではないのでしょうか。
新年度を迎えるとともに新たな元号の時代が間もなく始まります。市民の皆さんと共に「成熟したまち三田」を目指して、歩んでいきたいと思えます。